

---

# プラントハイスクール

台風X号

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

プラントハイスクール

### 【Nコード】

N1207W

### 【作者名】

台風X号

### 【あらすじ】

植物を擬人化させた物語。初の学園モノです。恋愛系も含まれています。でも、恋愛に関して疎い自分が恋愛を描けるかどうかは不安ですが頑張ります！

## 第一話 詳しい&0・25&26

1・ 詳しい

ニシキソウは、オキナワマツバボタンを呼び出した。

「ニシキソウ先輩、急に呼びたして。」

「いいな、お前等の学年、1科目教科減ったって。」

「まっ、物理担当のタカワラビ先生がトラブルメーカーだから。」

「来週の中間考査8科目。気まずいのはオキナワマツバボタンの方か。」

「7科目って少し不満だよ。」

「確かにな。」

オキナワマツバボタンは、ニシキソウから少しアドバイスしてもらった。

2・ 0・25

イヌタデは、何かを気にしていた。

「0・85?。」

イヌタデは、この数値を気にしていた。

そこで、次の数値を探しに行った。

0.50mという数値を見つけた。

「あつ、すぐ近くに0.25m。」

そこには、増水したときのハザードに関する看板であった。

「あれ、3.14159m? って円周率かー！」

3.26

トウダイグサ教師は、少し悪だくみをしていた。

「卓球の球を3つ持っていけば、ダブルスの試合ができそうだ。」

しかし、計算違いであった。

30個あると思っただが、1個がなかった。

「26個になってしまっのか。」

トウダイグサは27個目の卓球の球をのこして出て行った。

**第一話 詳しい&0・25&26 (後書き)**

次回 第二話をお楽しみに！

小説主題歌は、此のストーリーが第3話まで言ったら発表します。

## 第二話 連携プレイ&眠気覚まし&テスト結果

### 4・連携プレイ

オオニシキソウとノウルシは、バスケットをしていた。

「パスを任せるぞ。」

「よしっ！」

ノウルシのマークを取りはらうために、マツバボタンとイヌコハコベとヒメクグがガードに入った。

ノウルシはオオニシキソウにパスをして、オオニシキソウのダンクシュートが決まった。

結果は、ノウルシチームの勝利に終わった。

### 5・眠気覚まし

「眠いよー。」

コニシキソウが、うとうととしていた。

「寝不足かい、コニシキソウちゃん。」

「あ、オキナワマツバボタン。」

「ちょっと徹夜しちゃった。勉強のことで。」

「そうか、あまり無理はせず、今日は早めに寝るといいよ。」

「うん。」

窓を開けた瞬間、暴風クラスの強い風がコニシキソウの目を覚ました。

「すごい風だー！」

## 6・テスト結果

ユリは、ヒマワリとスベリヒユに聞いた。

「君たち成績良かった？」

「まあまあってところかな。」

「そうだな。ほんのわずかの差でヒマワリを抜いていたよ。」

「ユリはどうだい？」

「あまりいい点数じゃなかったな。」

「そっか、頑張って期末には見比べようぜ。」

「ああ。」

**第二話 連携プレイ&眠気覚まし&テスト結果(後書き)**

次回は、第二話お楽しみに！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1207w/>

---

プラントハイスクール

2011年10月10日12時00分発行